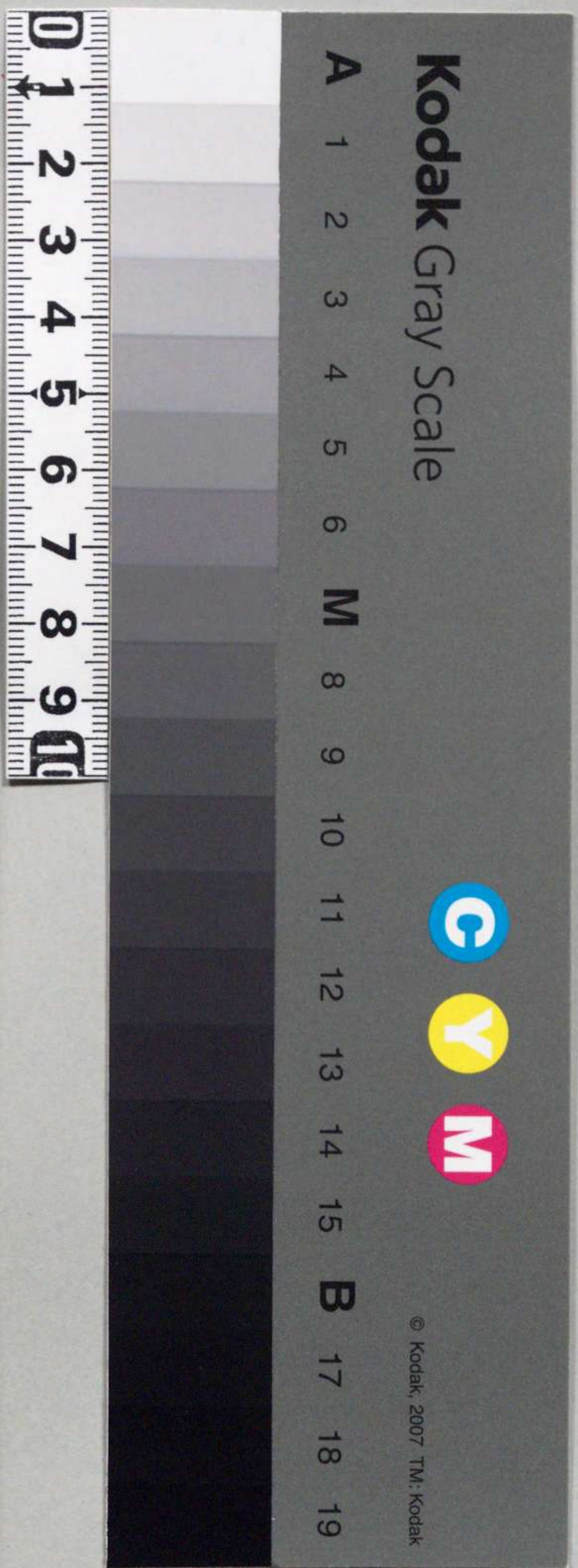


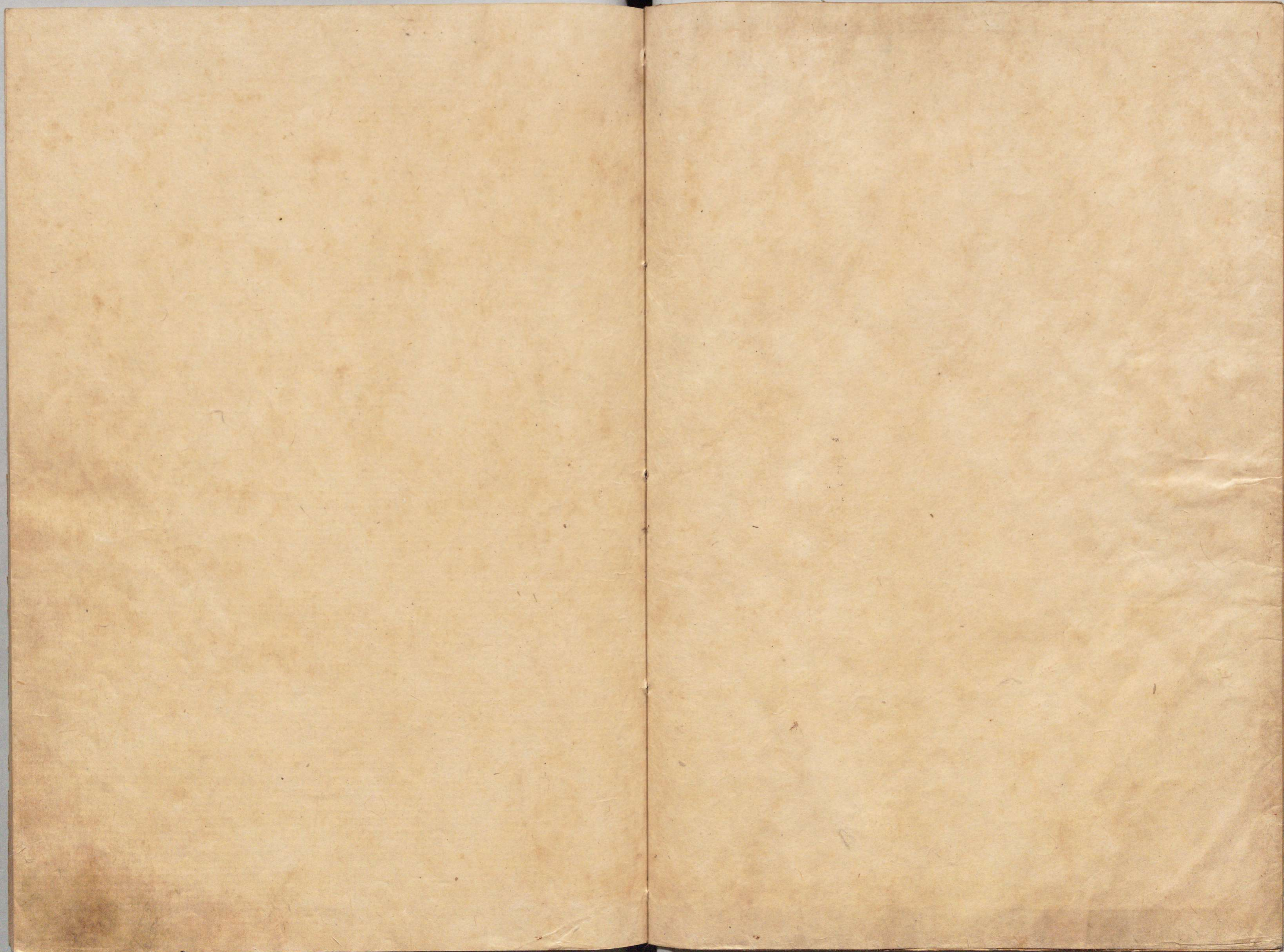
39

寛永諸家譜

清和源氏庚八冊之内
義光流之内武田流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (39)
函號	76 1





河窪

寛永諸家系圖傳

清和源氏

庚三

義光流

河窪

武田彦流

淺草文庫

● 義光

朝孫之郎

刑部丞

甲斐守 後五位上

經基王

けし

村礼 少将 日旗

指を相傳寸

家傳といはく後冷泉院永承年中父
頼義朝臣勅とらけたまはりて安倍貞
任致任と追伐の時先任者此社小指
して朝敵平伏の祈誓とらへす時
神代河りく旗一流禮一領とたまはる
是より此を神功皇后に二物とらへて
韓をたゞげく海國の後任者明神
按部はよ鎮坐の時室敷に奉納とら
ふなり今靈神の感應よりて頼義

是をたゞめらる事ハ誠ニ希代の名譽也
義光末子よりとらへども父此鐘屯
よりて是をお傳し義光又義清にお傳
寸さきより武田代に此室物より旗は
白地に文あり禮は菱の紋河りく是小
よりく菱とらへ家の紋とす

義業うしなり

刑部太郎 佐竹の祖

義清 よしひら

刑部之郎 武田冠者 たけだのくわんじや

射礼楮を相傳す やらいのたしり

甲斐守市川の庄に配せしむる後回 あゐのまもり

國武田小任す是よりして武田の冠者 くにたけだのこざと

と号す なづか

清光 きよみつ

黒源左 逸見冠者 くろげんざ

射礼楮を相傳 やらいのたしり

光忠 みつただ

逸見太郎 上総外 えんみの

武田太郎 駿河守

射礼楮を相傳

孝光 たかみつ

かく英次郎 信濃守 つばみの

光朝みつとも

光定みつさだ

秋山あきやま太郎

小太郎

长清ながさとし

小笠原おがさわら次郎

光行みつゆき

南みなみ於お之の郎

光経みつね

如ごと美みの田の郎

光俊みつとし

於お曾の五ご郎

长経ながつね

太郎

清胤きよむね

河原かわら次郎

河波かわなみ必かならず寸すん

阿あ一いち

横根よこね别わか当あた

長光 ながみつ

奴白守郎 ぬしろしろう

長家 ながいえ

小曲五郎 こまがごろう

時長 ときなが

付時六郎 つくとしむさしろう

朝長 あさなが

大升七郎 おほのぼりしちろう

朝光 あさみつ

中系九郎 なかぎしゅうろう

白草 しろくさ

仍長 なほなが

小菟十郎 こうとじゅうろう

清時 きよとき

鳴海与一 なるみよいち

長隆 ながたか

大菟与次 おほのうよじ

園清 のぞみきよ

走湯山の禪師 そうたうさんのぜんじ

義定よしつむ

安田やすだ之の郎ら 幸さち江へ守もり

清隆きよたか

平井ひらゐ守もり郎ら

隆義たかよし

二宮にのみや太た郎ら

隆頼たかより

平井ひらゐ次つぐ郎ら

隆時たかとき

出孫いでそ之の郎ら

長義ながよし

河内かつらひ五ご郎ら

仍義なほよし

奈胡なご十じゅう郎ら

義継よしつぐ

太た郎ら

義俊

二郎

鼻和

行信

三郎

浅原

信继

弥太郎

米倉

義成

浅利子一

源亨

上勇祿

信清

奴白与三

长光

忠頼

一條次郎

坂东の耳利侍惣共忠頼

魚信いしづみ

等此先祖ありこのいづみ

板垣之郎いとかき

有義うりぎ

逸見之郎いづみ

武田三浦尉

信光

五郎 伊豆守

神く甲斐守石和庄いこのやとなまらるるに

よりて石和五郎と号す

後日武田の魚いづみとありと村礼むらに楯たてと
お傳す

朝信あさのぶ

太郎 黒坂くろさかの先祖いづみ

信忠

惣そう之郎

信政

石和いしわ小五郎 伊守いし守し 安藝あきの國くにと領りやうす

信也のぶ なが

一條六郎いちじょう りくご

甲斐守かいしゅ

楮屋相傳しゅゐ さいでん

光家みつ け

太郎たろう

義也よしか

三郎さんご

頼也より なが

四郎しご

持丸もちまる

信經のぶ ね

八郎はちご

楮屋相傳しゅゐ さいでん

信行のぶ ぎ

高島たかしま

時信とき しのぶ

甲斐守かいしゅ

武川組むかわぐみ

佛阿と号寸ぶつあ と かげすん

義行 よしゆき

与次 东条の祖 楮之相傳 とら とうじょう たしなむらじま

信隆 のぶたか

一文七郎 駿河守 村礼相傳 いちもんしちらう しゅんがしゅ んらに ともだいに
尾張和泉伊勢越前守 兼此守 おわりわいせいぜつぜんしゅ かねこしゅ

正隆 まさたか

一宮太郎

時隆 ときたか

信賢 のぶけん

上条之郎 駿河守 南腹の嫡子 かみじょうのらう しゅんがしゅ なんはらのちやくし
信隆の次子 信隆と信隆 のぶたかのつぎしゅ だてたか
安藝守 兼此守 あきのしゅ かねこしゅ

春嗣 はるつぐ

駿河守

信平たけひら

八郎やちろう 早川はやがわ

信基たけもと

九郎くわらう 岩淵いわたがし

信状たけじょう

菊王きくおう 禪作ぜんさく 殖本えきもと の先祖せんぞ

光みつ 殖しよく

十郎じゅうらう 園井うゑい 坊坪ぼうへい の先祖せんぞ

貞經さだつと

五郎ごらう 信經しんけい 孫五郎まごごらう

信時たけとき

五郎ごらう 二郎にいらう 伊豫守いよのり

政綱まさつな

五郎ごらう 良之郎よしのらう

信盛たけもり

五郎ごらう 豹井ひょうい 岩崎いそざき

政長まさなが

下系五郎七郎しもがへごろうしちろう

信泰のぶやす

信綱のぶつな

時綱ときつな

六郎

伊豫守

信實のぶざね

時平ときひら

次郎

政頼まさたのり

三郎

貞光さだみつ

与次

光時みつとき

又五郎

七郎

信宗 のぶむね

孫六 伊豫守 安藝の守護

信武 のぶたけ

孫六 陸奥守 快理亮 左馬頭
楯に到来し是と下持す
安藝甲斐守の守護
了付尻頭人 新子載集の作者

法名 雪山照云 清浄真院と号す

信成 のぶなり

次郎 刑部大輔

甲斐守の守護

法名 雪宍光云 继统院と号す

信明 のぶあき

陸奥守 大井と号す

春明 はるあき

彈正少弼

信丁 のぶちやう

大和守

北條きたうぢと号寸

明仲 あきちゆう

光善寺 みつぜん

祥雲菴 しやううん

信弘 のぶひろ

上総公

高合たかあひと号寸

信直 のぶちゆう

長太郎

隆祥寺 りゆうしやう

昌義 まさよし

中務少輔 なかつむのすけ

伊豆守

信家 のぶけ

次郎 彈正少弼

高峯

奈良西大寺の僧

氏信

伊豆守 安藝守の守護

信在

信守

伊豆守

伊豆守

云信

長庫頭 薩摩守

義武

法名心溪誠云系頼寺と号す

四郎 信清守 穴山と号す

武明

長幼少輔 法名月意道明

満信

五郎 長庫頭

信春

之郎 隆興寺 甲斐國の守護

けとこ 白鷹此記り

指石到來 法名花峯春之護國院

と号寸

基信

四郎

武春

五郎 下桑と号寸 伊豆守 卷子

と号寸

武續

十良 桑原と号寸

信通

信明

出羽守

出羽守

海春

六 布施

頼武よりたけ

布施ふせ

法名宗山超公しやうざん

海朝うみあさ

右馬頭うまがしら

法名季勝最云きしかつ

大慶和尚たいけい

慈恩寺じおん

信清しんせい

安藝寺あゑ

法名天用長袖寺と号すてんよう

信満しんまん

二郎

安藝寺あゑ

指石相傳さしいし

安藝

甲斐あゑ 西にし 此こゝ 与よ 護ご

應永四年二月六日 甲斐西本賊おうえい

山栴雲寺さんぜん

しく日害ひがみ

法名明菴めいあん

道光長松寺と号すたうかう

成春

三郎 刑部大輔 吉田と号す

判髪して性光と号す

海春

三郎 修理大史 穴山と号す

信继

六郎 伊豆守 下桑と号す

信久

七郎 市船と号す

法阿弥陀仏

一蓮寺

法久

観音寺の僧

信久

北海と号す 真禪院

信元

長船少輔 法名 英山と号す

信重

三郎 刑部大輔

楯之相續村礼たてのつらつら 公来たつら

宝徳二年十一月二十四日卒去たつら

法名功嶽成云成就院と号す

信長

八郎 右了助 上総公たつらと号す

信康

長庫助 け代よ 江草小狐けさくこぎよの太刀相傳たつら
法名月叟 永正寺と号す

宗平

仁勝寺にしょう

信系

今升いまのぼ孫六 左了助

信純のぶ

長庫助

信長のぶ

八郎 涼岳りやうがくと号す

信賢しんけん

官内大補

巨勢村こせむらと号寸

信廣しんこう

治部少補

倉科くらがと号寸

信安しんあん

民部少補

山官やまかんと号寸

信守しんしゅ

弥三郎

刑部大補

信外しんがい

村礼むらね指之さしと相續寸あひつぎ 甲斐守かゐのり此こゝと号寸
享徳四年五月十一日卒寸まゐり 法名
勇山ゆうざん健けんと号寸 德澤とくさくと号寸

刑部少補

穴山あなやまと号寸

法名英中えいちゆう 天瑞寺てんずいじと号寸

信賒しんせん

刑部大補

法名忠翁ちゆうおう道義だうぎ

信永ひさ

宗九郎

信亮たか

刑部大補

信風と

甲斐守

永信

成軌院なるのりと号寸

基理もと

伴豫守とも 法名萬叟まんそう 善法院ぜんのりと号寸

賢信けん

中務大補なかつぶ 下尊祿しもたかと号寸

信真のぶまこと

信文のぶみ

出羽守 上野外

周檜しゅうの

惠光寺めぐみ

心珠

報恩寺

系

又三郎

信昌

五郎 刑戸大捕 没五位下

旗指を相續

幼上野外縁叛の時村礼此法并

家の重宝等焼失寸

永正二年九月十六日卒寸 法名

傑山捨云永昌院と号寸

信繩

五郎 左京大夫 陸奥守 没四位下

旗指を相續

永正四年二月十日卒寸

法名字山邦云長真院と号寸

信惠

左八郎

油川と号す

信貞

播广守

信友

源左清門尉

信州海野とく村と義清と合戦

此と紀討死

系

系之郎

永禄四年九月十日信州文級郡

川中嶋少く越後系虎と合戦の

時とら死

繩美

四郎

信勝のぶ

法印少輔

系のぶ

善九郎

信賢のぶ

二郎 松尾と号す

宗存のぶ

飯雲軒

信虎のぶ

五良左京大夫 隆興寺 従五位上

旗指と相續

天正二年三月五日卒す 法名泰雲たいうん

存乙ぞん 大泉寺と号す

信友のぶ

次郎五郎 安藝守

晴信

大膳大丈 信流也 後四位下

旗指をなすびよ弓法を相續す

剃髪して法性院大僧正信玄と号す

元龜四年四月十二日卒す五十三歳

惠林寺と号す

義信

大郎 母ハ之條内大臣のむすめ

永禄十年十月十九日卒す二十三歳

法名吾山良云 東光寺と号す

勝頼

曰郎

旗指を相續す

天正十年三月十一日甲州天目山

少く自害歳二十七法名泰山常公

信猪のぶち

大郎

父猪ちちちと曰いく自害じがい寸時すんじ十六歳

龍芳りゆうほう

海野うみのと号寸ごうすん盲目めくらめくら

盛信もりのぶ

仁科にのぶ五郎

義久よしか

葛山くわざん十郎

女子

北條きたじょう氏政うぢまさの妻めかけ

女子

穴山あなやま梅雷うめらいの妻めかけ

女子

木曾きそ左馬さま頭かみの妻めかけ

信繁のぶしげ

たる助

永禄四年九月十日信州史級郡河
中
鴻とら討死年三十七
宗園院そうゐんと号寸

信豊のぶ

たる助

女子

仁科にしか素すめ

信基のぶ

六郎 上野介

信綱のぶ

刑部少輔

道遠軒みちとほと号寸

女子

小笠原掃部右史こしかげ素すめ

女子

仁科五郎にしか素すめ

信是のぶ

女子

松尾まつお次郎

宗智そうち

惠林寺えりんじ此こゝ唱うた食をく

早世さうせい

信實しんじつ

左ひだり邊へ大おほ丈さだ

長なが庫くら形かたち

天正三年五月二十一日之州あまのりゅう長なが條ぢょう合あひ我が

此こゝ河が鳥とり巢のう一ひとくく付つ死し三さん十じゅう二に歳さい法はふ名な

一機ひとつゝま

信然しんぜん

善人ぜんじん右みぎ邊へ大おほ丈さだ

一ひと條ぢょうと号なづす

女子

今川いまがわ義元よすけの室むろ

女子

穴山あなやま伊豆いず守まもり妻めかけ

女子

飯い保へ形かたち形かたち重かさねり妻めかけ

女子

浦うら野の母はは

女子

大井次郎の妻

女子

下條の母

女子

津津平の母

女子

菊亭大納言の室

信俊

河窪新十郎 与右衛門

甲州滅亡の母

東照大権現よはし人ひる是よりさきこ

州の任人藤濃といふの河り一とを

大権現の命よりひひく甲州よのれ

まゝ父信實よ属して年とつるれ

後ろ此答と教先とてとて刑よ

ふとと信實尊こりしを河り

此げくいゝ我聞

大権現尊とこのとなまふこれと献して
あ湯まぐ〜藤濃と州小かりてあ
旨と

大権現よ申けい大に信實がなうけ
河を感とたまふと後天正十年
甲州河入ふれ時藤濃よおかせく
信實が子孫とたつとたまふよ〜信
後初め〜

大権現よはく人なる時よ十九歳

信後よ〜甲州河窪の地と領する

ゆ〜武田氏と河〜あ〜河窪と
称号す

日十一年

大権現は栗田七九郎康忠と大ねとて

信州の凶徒とたつ〜時信後康

忠よ属して教白寸相本市栗田途

〜是と〜して依久野前山

よりな人をまうけて相ま川あはあ
ておことお我信俊先陣はまうんで
是ををさる味方うつはあこ道は
ひうつ信俊一島は敵をうらうり首
級をゆりけ外芦田小屋等所くに
て戦功有り
同十二年尾州長久合戦の時信
俊首九級を敵まうり此内之級の信俊
是とゆり

同十八年小田原陣小ありむき武州岩
付の城をむむり時信俊平岩と計頭
親吉は属してまうり恩后曲輪は
山口平内を討てま首とまうり又敵一
人をまうり少を味方小ま首とま
しむ

大指現こ道を感しなまひく聖年武
州のうらあま来地こ子領石を治り
奥州岩と陣は信を

享和五年關原合戦の時御旗下
とて侍り侍

大坂あ度の御陣よ

大指現の侍

寛永三年家督と子信雄と譲て

隠居す

同十六年二月十日死去七十六歳

法名道二

信雄

自膳正越あち 後五位下

母ハ正親町三條公仲此にすめ

享和十七年十二歳とく

大指現とあし侍りてを仕す

大坂あ度此御陣小侍

寛永三年父が讓と受けく家督と

隠す

同八年

右通院殿の命よりりて御使番ついでとある

同年又 約命えいめいよりりて御書院番きえんばん此

継頭ついでとある 同九年

右軍家の約命よりりて後五位下に叙す

一 越前守よりりて

同十五年 任とらけたゆりて水小姓みづこせう

継の番頭ついでとある

同十六日三月廿五日死す二十九歳

法名ほふな玄英げんえい

信種たけむね

七郎右衛門

元和二年

右通院殿とあり

信房たけふさ

右十郎

信宅たけたく

右左衛門

信次

之右衛門

寛永十二年

為軍家を降ししむ

信通

三郎義

信平

八十郎

女子

女子

信貞

新十郎

母ハ山田十太史重利ノ女

寛永十六年九歳少く

為軍家とありしより父が忠督とて

領地となす

信安 あやむら

忠之郎 母上小印

寛永十六年父が領地りやうちよりちたふ
所は七歳

女子

家紋割菱 いっしんりやび



